カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

| | |
|---|---|
| 記入者名 | |
| 記入年月日 | 2006年4月1日 |
| 学部・研究科名 | 人文学部 |
| 学科・専攻等名 | 人文社会学科 |
| コース等名 | 人間論コース |

| 学部（学科）の教育目的（具体的に記述・箇条書き） | コースの教育目的（具体的に記述・箇条書き） |
|---|---|
| 学部の教育目的：時空の広がりの中における人と社会（世界）の営為を根底から問い、それを的確に表現できる人間を養成する。<br>学科の教育目的：思想・歴史・社会の諸相を探究し、それを的確に表現出来る人間を養成する。 | 人間の諸活動を根底において支える世界観・人間観・倫理・宗教等々に関わる思索を探究・検討し、より豊かな生のあり方を模索する。 |

| | | | コースのGraduation Policy(GP)　（◎＝ＧＰ達成のために、特に重要な事項、○＝ＧＰ達成のために、重要な事項、△＝ＧＰ達成のために、望ましい事項） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | 授業科目の主題（箇条書）<br>（この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入する。） | 授業科目の到達目標（箇条書）<br>（この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。） | 古今東西の哲学・思想・宗教についての知識・理解を拡大・深化する。 | 人間の文化を本質的、根源的に問うための視座および論理的思考力を獲得・鍛錬する。 | 現代における哲学・思想・宗教の諸課題を発見・分析・考察するために必要な能力を涵養する。 | | | | | |
| 人間論入門 | この講義では、人間論コースの教員全員が交代で2－3回ずつ授業を担当します。それぞれの教員が専門とする学問分野が扱う実際の内容に接することが、人間論への最良の案内となると考えます。 | 人間論コースの各分野（哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想）が扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。 | ○ | | | | | | | |
| 哲学概論I | この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。 | 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。 | ○ | | | | | | | |
| 西洋哲学特殊講義 | 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 | 一つの哲学的問題について深く探究する | ○ | | | | | | | |
| 西洋哲学特殊講義 | 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 | 一つの哲学的問題について深く探究する | ○ | | | | | | | |
| 西洋哲学講読 | この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 | 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。 | | ○ | | | | | | |
| 西洋哲学講読 | この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 | 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。 | | ○ | | | | | | |
| 西洋哲学演習 | プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。 | 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 西洋哲学演習 | 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。 | 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 西洋哲学演習 | 昨年に引き続き、ハイデガーの『存在と時間』を読む。しばしば「20世紀最大の哲学書のひとつ」などと言われ、後進哲学者たちに多大な影響を与えてきたこの大著を、今一度、冷静かつ批判的に解釈し、思想の内実を検討することを通じて、我々一人一人の哲学的思考を活性化することを試みる。 | 1.『存在と時間』において企図された「存在の意味への問い」の射程と方法を理解する。<br>2.ハイデガーによる「現存在の分析論」の成否を、事象に即して具体的に検討する。<br>3.『存在と時間』を理解し解釈するうえで必須の哲学史的知識を得る。 | | ○ | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 西洋哲学演習 | 昨年に引き続き、ハイデガーの『存在と時間』を読む。しばしば「20世紀最大の哲学書のひとつ」などと言われ、後進哲学者たちに多大な影響を与えてきたこの大著を、今一度、冷静かつ批判的に解釈し、思想の内実を検討することを通じて、我々一人一人の哲学的思考を活性化することを試みる。 | 1.『存在と時間』において企図された「存在の意味への問い」の射程と方法を理解する。<br>2. ハイデガーによる「現存在の分析論」の成否を、事象に即して具体的に検討する。<br>3.『存在と時間』を理解し解釈するうえで必須の哲学史的知識を得る。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 倫理学原理論 | この講義では17世紀の哲学者スピノザ(1632-1677)の真理の理論を取り上げ、真理と倫理の関係について学びます。 | 哲学の古典に親しみ、問題を読み取れるようになること。 | ○ | | | | | | | |
| 倫理学講読 | 生命倫理学の基本的文献を読む。基本的には、日本語の文献をメインとするので、読む量を多く、幅広い理解を得られるようにする。（文献名は未定）現代の生命倫理学において何が問題になっているのかを、文献を読み理解する。 | 生命倫理学の大きな枠組み、基本となる考え方が理解できる | | ○ | | | | | | |
| 西洋倫理学演習 | カントのテキストの読解をつうじて、カント哲学の全体像に目配りしつつ、彼の人間論、ならびに自由と道徳の基礎付けの基本的な方向線を把握する。 | （カントの）哲学の全体像を把握する。<br>（カントの）人間論の骨格を理解する。<br>（カントの）自由論の骨格を理解する。<br>（カントの）道徳論の骨格を理解する。<br>「善く生きる」ための想像力と知性との涵養のための基盤を整える。<br>原文批判の方法に反省を加える。<br>日本語・ドイツ語の運用能力を高める。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 中国哲学史I | まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。 | 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的文脈に即して理解できるようにする。 | ○ | | | | | | | |
| 中国哲学史II | 中国伝統思想の中核をなす儒教の教説とその歴史的展開を、その経典である四書五経の内容と解釈史をつうじて概説する。 | 1.四書五経それぞれの内容上の特徴を理解する。<br>2.経書解釈史をつうじて、中国伝統思想の歴史の概要を理解する。<br>3.異文化の思想伝統に触れることをつうじて、人間にとって知的営為が持ちうる意味と可能性を考える姿勢を養う。 | ○ | | | | | | | |
| 中国思想史論 | 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の祭祀、戦争などの具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。 | 講義を通じて、つまり史料の解読を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。 | ○ | | | | | | | |
| 中国思想史論 | 前期に同じ | 前期に同じ | ○ | | | | | | | |
| 中国思想史論 | 中国の土着宗教である道教について、主に現在の中国大陸における現状を紹介しながら、その背後にある道教の教理・思想・歴史について解説を行う。最終的には、道教というものの性格と内容について、総合的かつ的確な理解が得られるようにする。 | ・ 中国道教の思想・歴史について、基礎・概要を理解する。<br>・中国道教の思想・歴史について、基礎・概要を理解する。<br>・現在実際に存在する道教の姿について、具体的に学ぶ。<br>・中国の文化全体と道教との関係について考察する。 | ○ | | | | | | | |
| 儒・仏・道三教比較交渉論 | 今年度は、中国の伝統的な経済倫理思想の特徴と意義を、儒・仏・道三教それぞれの場合を比較しながら考える。前期ではとくにこの問題を考える際の理論的枠組みを中心的に検討し、マックス・ウェーバーの見解および理論的枠組みと、これに対する批判を企図した余英時の見解に焦点をしぼる。 | 1.中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。<br>2.さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。 | ○ | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 儒･仏･道三教比較交渉論 | 前期に引き続き、中国の伝統的な経済倫理思想の特徴と意義を、儒･仏･道三教それぞれの場合を比較しながら考える。後期は、儒教を中心としつつ、三教それぞれの経済倫理の諸側面を解説する。 | 1.中国思想の問題を考えるに際して儒･仏･道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。<br>2.さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。 | ○ | | | | | | | |
| 中国思想史料講読 | 司馬遷の史記を精読する。昨年に引き続き、仲尼弟子列伝を読む。テキストは瀧川亀太郎の史記会注考証を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隠、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。 | 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。 | | ○ | | | | | | |
| 中国思想史料講読 | 前期に同じ | 前期に同じ | | ○ | | | | | | |
| 中国思想資料講読 | 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説･研究の文献をも参照することで理解を深めていく。今年度は王陽明関係の資料を選読する。和刻本や既存の訳文を適宜利用しながら、より正確な読解をめざす。 | 1.高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。<br>2.原典とその著者の思想について、解説･研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。<br>3.原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録･索引類といった工具書の利用法を身に付ける。 | | ○ | | | | | | |
| 中国思想史料講読 | 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説･研究の文献をも参照することで理解を深めていく。今年度は王陽明関係の資料を選読する。和刻本や既存の訳文を適宜利用しながら、より正確な読解をめざす。 | 1.高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。<br>2.原典とその著者の思想について、解説･研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。<br>3.原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録･索引類といった工具書の利用法を身に付ける。 | | ○ | | | | | | |
| 中国思想史料講読 | 中国の思想史に関する資料を講読する。 | 中国思想史に関する資料の講読を通じて、中国人の思想や、考えに理解を深める。中国語の文献にふれることにより、中国語の習得も繋がる。 | | ○ | | | | | | |
| 中国思想史料講読 | 中国の思想史に関する資料を講読する。 | 中国思想史に関する資料の講読を通じて、中国人の思想や、考えに理解を深める。中国語の文献にふれることにより、中国語の習得も繋がる。 | | ○ | | | | | | |
| 中国思想演習 | 現代中国語で書かれた中国思想関係の入門書や論文から、比較的平易なものを選んで読んでいく。余力があれば、そのテーマに関連してどのようなことが研究されており、どのようなことが問題となるのかについて発表と討論を行う。 | 1.論文調の現代中国語の読解力をつける。<br>2.多様な論文テーマに触れることにより、自らの研究テーマ選択へのヒントを得る。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 中国思想演習（3･4年生） | 中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史･資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。 | 与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。3年生は、先輩の論文作成作業の進め方を間近で観察し、様々な教訓を得て、実際の作成作業に生かす。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 中国思想演習（3･4年生） | 前期に同じ | 前期に同じ | | ○ | ○ | | | | | |
| 中国思想演習（3･4年生） | 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。 | ･4年生：卒業論文題目を確定し、初歩的な構想を立てる。<br>･3年生：4年生の報告に触れ、討論に参加することを通じて、自らの問題意識を明確化する。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 中国思想演習（3･4年生） | 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。 | ･4年生：卒論執筆過程の各段階で問題点を克服しながら論文を完成させる。執筆後においては自らの到達点と不十分だった点を明確に把握する。<br>･3年生：論文執筆過程での必要事項を認識する。自らの問題に関連した資料収集などを進め、おおよそのテーマを決定する。 | | ○ | ○ | | | | | |

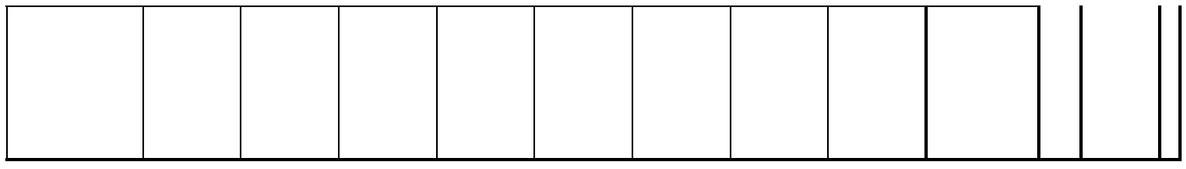
| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本倫理思想史I | 中世日本の倫理思想　『平家物語』『徒然草』について主として講述します。昨年度は古代･中世の思想史を概観しましたが，今年度は採り上げるテクストを限り，本文を味読しながら，中世日本倫理思想の一端に触れることをめざします。 | 『平家物語』『徒然草』およびその周辺テクストに即して，その思想内容を具体的に知ること。 | ○ | | | | | | | |
| 日本倫理思想史II | 「日本の倫理思想の諸相」<br>日本の過去の倫理思想の諸相を解説します。15年度は武士の思想，儒学･国学の思想を対象としましたが，16年度は，近世庶民の思想，幕末の思想，近現代の思想を対象とします。 | 日本の過去の倫理思想を理解します。もって自己の考え方，ものの感じ方をとらえかえし，自己認識を深めます。 | ○ | | | | | | | |
| 比較思想論 | 「仏教説話の思想」＜後期集中＞<br>「輪廻転生」「因果応報」という観念は、仏教を受容することによって日本社会にもたらされ定着したが、これらの観念が意味を持つ人間観、世界観とはどのようなものであるのか、また、これらの観念が意味を持つということには、どのような問題があるのか、『今昔物語集』を資料として、天竺巻を中心に検討して行く。 | ある人間が、他でもなく、現にそのように存在しているということを了解する、ひとつのモデルを学び検討することによって、現代日本社会で、自分自身が固有の生を生きているということを見つめる意識の糧を得てほしい。 | ○ | | | | | | | |
| 日本思想論 | 「中世～近世初期の神道思想」<br>国学以前の，中世から近世にかけての神道思想を解説します。中世には神本仏迹（反本地垂迹）説が出現しました。近世には，朱子学の理気論と習合した儒家神道が出現しました。奇妙な説が多いですが，そのことの意味を考えます。 | 国学以前の神道思想を理解します。日本思想を扱う場合，わたくし自身，どうしてもイデオロギー的に捉えがちです。それは，まったく容易なことです。しかし，それでは，イデオロギー的にも超えることができないでしょう。正義感と後知恵とを抑制しつつ，過去の人々の考えたことを何とか理解しようと試みます。 | ○ | | | | | | | |
| 日本思想論 | 説経の思想　『説経集』を読みながらその思想について講述します。昨年度は『神道集』所収の物語的縁起を読みましたが，今年度は同じ関心の延長上に，中世から近世にかけて流行した語り物文芸，説経の作品を読みます。 | 『説経集』に即して，中世から近世にかけての神仏習合思想の一端に触れること。 | ○ | | | | | | | |
| 日本思想文献講読 | 「和辻哲郎研究」<br>和辻哲郎の日本文化研究を振り返ります。 | 和辻哲郎の倫理学的思想史研究の方法を理解します。 | | ○ | | | | | | |
| 日本思想文献講読 | 「和辻哲郎研究」前期から引き続き，和辻哲郎を読みます。 | 前期を参照。 | | ○ | | | | | | |
| 日本思想文献講読 | 説話集を読む　扱うテクストは，受講生の希望も聞いた上で決めたいと考えますが，目下（2004年2月時点）『閑居友』『古本説話集』を読む予定です（他の可能性としては昨年度に引き続き『源氏物語』を読み進めることを考えています）。前者は鎌倉初期の仏教説話集，後者は平安末期の説話集で上巻は和歌にかかわる世俗説話，下巻は観音霊験にかかわる仏教説話を収めます。毎週数話を読み進めながら，説話の思想を探ります。 | 恣意を排し，かつ主体的にテクストを読む姿勢･素養を涵養すること。 | | ○ | | | | | | |
| 日本思想文献講読 | 室町物語草子（御伽草子）を読む　扱うテクストは，受講生の希望も聞いた上で決めたいと考えますが，目下（2004年2月時点）『室町物語草子集』を読む予定です（他の可能性としては，昨年度に引き続き『源氏物語』を読み進めることを考えています）。毎週一話を採り上げ，方法的に何らかの視点を設定し問いを立てながら，中世庶民の思想の一端を探ります。 | 恣意を排し，かつ主体的にテクストを読む姿勢･素養を涵養すること。 | | ○ | | | | | | |
| 日本思想論演習 | 「『古事記』研究」<br>『古事記』を読みます。 | 『古事記』を読み，理解する。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 日本思想論演習 | 『日本霊異記』を読む　日本最古の仏教説話集『日本霊異記』を読みます。毎回十話程度を採り上げ，編者が表現を意図したこと（例えば教訓）のみならず，巧まずして表現したと考えられること（例えば動物観）も含め，思想の解明を試みます。 | 恣意を排し，かつ主体的にテクストを読む姿勢･素養を涵養すること。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 日本思想論演習 | 「卒業論文執筆のための演習」<br>日本思想を卒業論文のテーマとする3，4年生を対象として，研究を具体的に指導します。受講生は，各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は，その発表を聴いて知見を共有すすとともに，そのテーマについて討論します。また，期末レポート相互に批評します。 | ○ 論文執筆の作法を身につけることを目指します。<br>○ 日本思想に関する知見を広め，幅広い考え方ができることを目指します。<br>○ 学友の前で研究の成果を発表し，質疑応答の場を経験することによって，より柔軟な態度を涵養することを目指します。 | | ○ | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本思想論演習 | 前期を参照 | 前期を参照 | | ○ | ○ | | | | | |
| 日本思想論演習 | 卒業論文演習　日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3，4年次生を対象として，各自の研究を具体的に指導します。受講生には，数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること，当番の回以外にも出席して議論に参加すること，を義務として課します。時には受講生同士，互いの期末レポートを読み合い，質疑応答を行う機会も設けます。 | 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要･十分なもろもろの過程を積み重ねることを目指します。各人のペースで研究を進めることが大切なのは言うまでもありませんが，授業の場で互いに率直に批評し合う経験を通じ，より柔軟な発想，精密な推論，広い視野，有機的な関心，明晰な文章，等々を獲得していけるよう，目指します。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 日本思想論演習 | 卒業論文演習　日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3，4年次生を対象として，各自の研究を具体的に指導します。受講生には，数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること，当番の回以外にも出席して議論に参加すること，を義務として課します。時には受講生同士，期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。 | 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要･十分な，もろもろの過程を積み重ねることを目指します。各人のペースで研究を進めることが大切なのは言うまでもありませんが，授業の場で互いに率直に批評し合う経験を通じ，より柔軟な発想，精密な推論，広い視野，有機的な関心，明晰な文章，等を獲得していけるよう目指します。 | | ○ | ○ | | | | | |
| 宗教学概論I | 宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的･体系的に考察する。 | 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。 | ○ | | | | | | | |
| 比較宗教論特殊講義 | エリアーデの理論と研究（比較宗教学）について学ぶ。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知り、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学の理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的･体系的に考察する。 | 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。 | ○ | | | | | | | |
| 比較宗教論特殊講義 | エリアーデの理論と研究（シャーマニズム）について学ぶ。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知り、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学の理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的･体系的に考察する。 | 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。 | ○ | | | | | | | |
| 比較宗教論特殊講義 | アジア的視野にたった宗教学入門をこころみる。日本の「無宗教」の風土の特殊性をしっかりとふまえたうえで、世界宗教群やローカルな宗教群をどうとらえたらよいかを考えたい。多くの文化は宗教的基礎にたっているので、宗教の知識とそれにもとづく正しい判断は21世紀のわれわれには不可欠である。 | (1)宗教を知る。<br>(2)宗教から学ぶ。<br>(3)世界を見る。 | ○ | | | | | | | |
| 宗教学文献講読 | 宗教学の基本文献を購読し理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、デュルケームの『宗教生活の原初形態』（前半）を読む。 | 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。 | | ○ | | | | | | |
| 宗教学文献講読 | 宗教学の基本文献を購読し理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、デュルケームの『宗教生活の原初形態』（後半）を読む。 | 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。 | | ○ | | | | | | |
| 宗教学演習 | 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点･枠組み･理論･方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。 | 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。 | | ○ | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 宗教学演習 | 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。 | 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。 | | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| ＧＰ項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き） | | | | | | | | | | |
| 総合的ＧＰ到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き） | | | 卒業論文の内容に関する到達目標の達成度が基準に達していること。（到達度判定基準は別表） | | | | | | | |

卒業論文の達成度判定基準

| 内容に関する到達度判定 | | |
|---|---|---|
| 判　定　す　る　項　目 | 判　定 | |
| 検討中 | 検討中 | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |



| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |